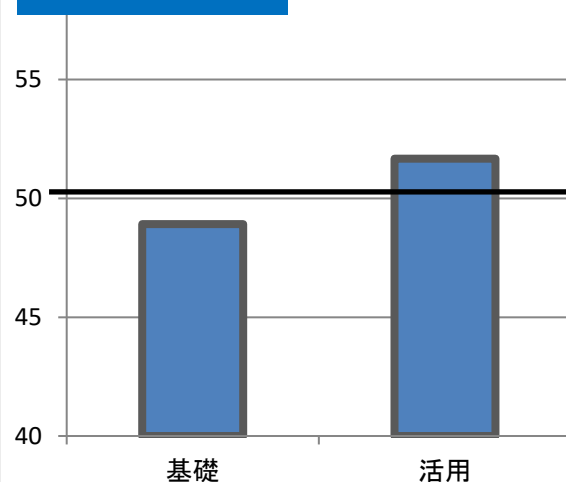


国語に関する本校の傾向と対策

基礎・活用



【考察】

漢字の習得や、接続語、主語・述語などの文章の構成について理解する基礎的な知識や技能の定着に課題がある。このような基本的な力の定着を基に文章の読み取りや自分の考えを分かりやすく伝える力を伸ばしていく。

【今後の方策】

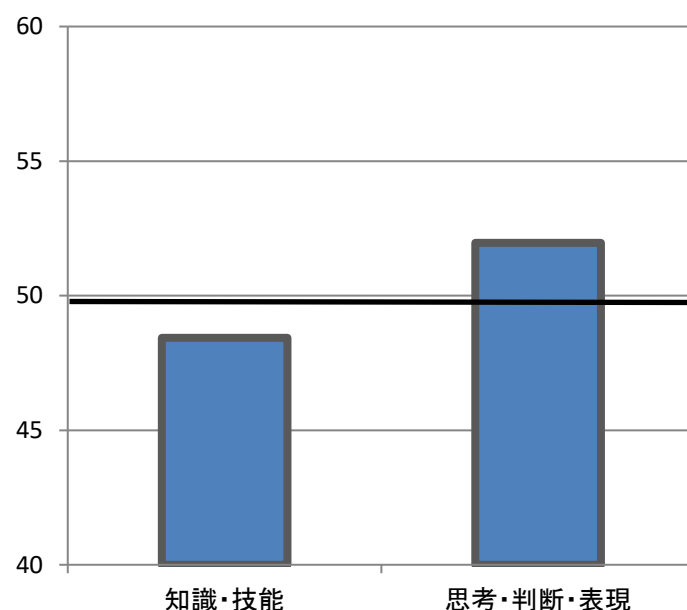
国語の基礎的な知識や技能については三木タイムや家庭学習、各教科の指導の中で定着に向けての機会を増やしていく。

文章の読み取りや自分の考えを分かりやすく伝える力については、読書や話し合いの活動を通していろいろな考えに触れ、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにしていく。

【次年度の目標】

各学年が全ての観点別正答率について、目標値を上回ることを目標とする。

目標値を50としたときの 本校平均正答率の割合



課題と指導のポイント

【第2学年】伝えたいことを明確にして書く

書くことを見付け、必要な事柄を集めて伝えたいことを明確にすることに課題がある。身近なことや経験したことなどを想起し、それらの中から書きたいことを見いだすために、学校や家庭、地域における身近な出来事や自分が経験したことなどについて、日頃から友達と話をしたり、日記を書いたりする活動を増やしていく。

【第3学年】伝えたいことが明確になるように話したり、書いたりする

相手に伝わるように構成を考えて話したり、書いたりすることに課題がある。伝えたい内容の中から、中心に述べたいことを一つに絞ること、事柄の順序を考えることなどを意識して文章の構成を考えられるよう指導していく。

【第4学年】共通点や相違点に着目して、考えをまとめる

互いの意見の共通点や相違点に着目し、一つの結論を出したり、話し合われたことに対する自分の考えをまとめたりすることに課題がある。グループや学級全体で話し合う活動を増やし、児童一人一人が司会などの様々な役割を経験できるようにしていく。

【第5学年】事実と感想、意見とを区別して書く

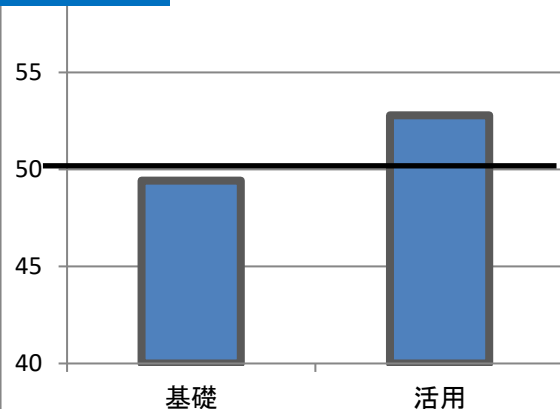
事実を客観的に書くこととともに、その事実と感想や意見との関係を十分捉えて書くことに課題がある。書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているのか、どのような感想や意見などをもっているのかなどに着目して、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に正確に捉える力を身に付けさせていく。

【第6学年】資料を読み取り、事実をまとめる

資料を読み取り、文章にまとめることに課題がある。国語だけではなく、算数のグラフの学習や社会の学習時に資料を読み取る機会を増やし、文章にしてまとめる力を身に付けていけるようにする。また、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結び付くのかサイドラインを引いて、必要な情報を見付けられるよう指導していく。

社会に関する本校の傾向と対策

基礎・活用



【考察】

「知識・技能」の項目が相対的に低い。基本的な知識の定着や資料の読み取りに課題がある。

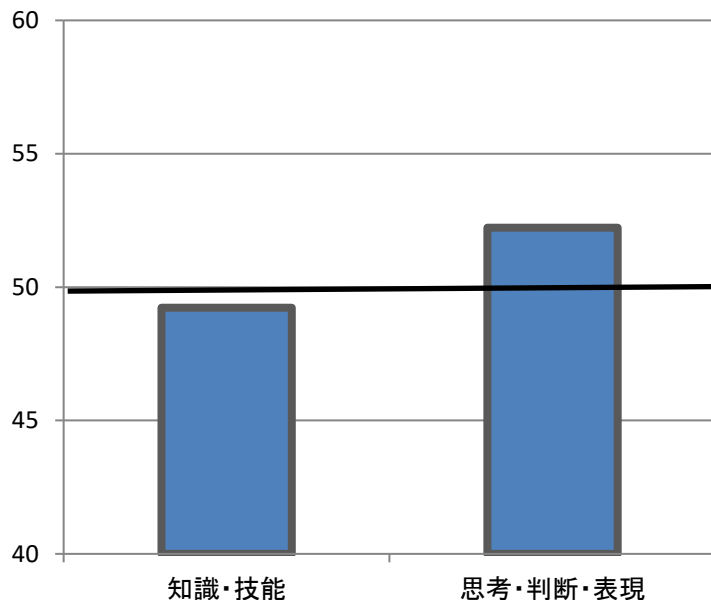
【今後の方策】

基本的な知識の定着を図るために、学習の振り返りの際に、知識の習得状況を確認する。資料の読み取りについては、読み取るポイントを押さえるだけでなく、他教科でも資料を読み取る機会を増やしていく。

【次年度の目標】

全ての観点別正答率について、目標値を上回ること

目標値を50としたときの 本校平均正答率の割合



課題と指導のポイント

【第4学年】基礎・基本の定着と情報を適切に活用してまとめる活動に取り組む。

図や写真から情報を読み取ったり、複数の資料から必要な情報を得たりすることに課題がある。学年終了時までに、資料を丁寧に読み取ったり、複数の資料を活用して分かったことを文章や図などにまとめたりする機会を増やす。

【第5学年】基礎・基本の定着と情報を適切に活用してまとめる活動に取り組む。

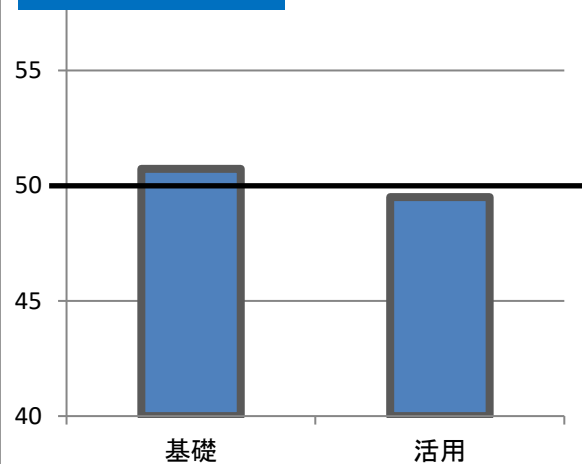
図や表、グラフを読み取ったり、複数の資料を比較・分類したり総合したりすることに課題がある。学年終了時までに、資料を丁寧に読み取ったり、複数の資料を活用して分かったことを文章や図などにまとめたりする。それらを基に自分の考えを説明したり、議論したりする機会を設ける。

【第6学年】基礎・基本の定着と情報を適切に活用してまとめる活動に取り組む。

基本となる知識・理解の定着に課題がある。各単元終了時に、学びを振り返り、習得状況を確認し、定着を図る。また、学年終了時までに、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、文章や図などにまとめたりする機会を増やす。それを基に、自分の考えを資料を用いて説明したり、根拠や理由を明らかにして議論したりすることができるよう機会を設ける。

算数に関する本校の傾向と対策

基礎・活用



【考察】

全体として、基礎的な計算技能や知識の定着は概ね良好であるものの、「活用的な問題」や「言葉や場面をもとに考える問題」において課題が見られる。

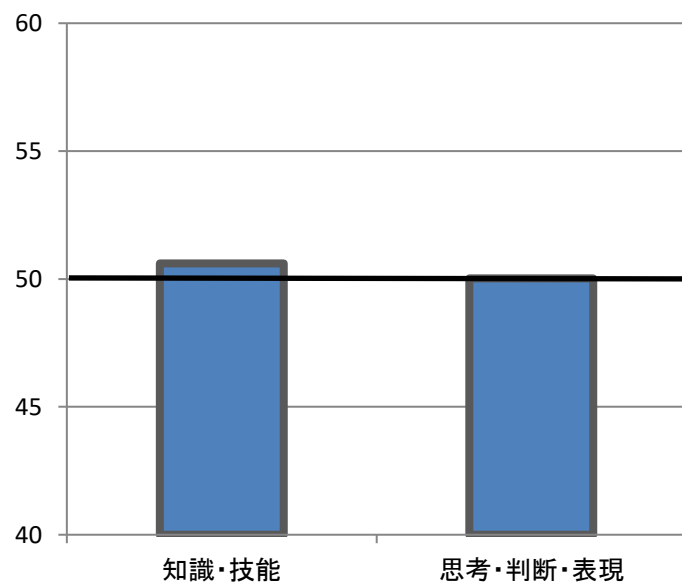
【今後の方策】

- ・思考の可視化と共有の重視：数直線、図、式、表などを使って「考え方を見える化」し、交流活動で多様な考え方に触れさせる。
- ・操作活動・体験活動の充実：具体物やICT教材を活用し、抽象概念を実感を伴って理解させる。（例：時計やかさ、図形、平均など）
- ・言葉と数量の対応を意識した指導：問題文から数量関係を読み取る力を育てるため、「何を聞かれていて、何が分かっているか」を整理させる。
- ・基礎・活用の往還を意識した学習設計：計算・知識の定着→活用問題への適用という流れを意識し、反復だけでなく応用への橋渡しを計画的に行う。

【次年度の目標】

基礎正答率80%以上、活用正答率70%以上

目標値を50としたときの 本校平均正答率の割合



課題と指導のポイント

【第2学年】 具体物を使った体験的活動と友達との交流

数の規則性や減法の文章題、時計の読み、かさの比較に課題が見られる。具体物を使った体験的活動や友達との交流を通して、数量感覚や場面の理解、数の意味の定着を図ることが重要である。

【第3学年】 具体物や図を用いて視覚的・操作的に理解

不等号や $\frac{1}{2}$ の意味、繰り上がり・繰り下がり、倍の理解、正方形の特徴把握に課題がある。具体物や図を用いて視覚的・操作的に理解させ、数量関係を経験的に捉える活動を取り入れることが効果的である。

【第4学年】 繰り返しの練習と具体的場面を通した理解

十進位取り記数法や繰り上がり計算、小数の計算、□の乗法、除法の意味理解に課題が見られる。位を意識した計算や、式と文章の対応づけを重視し、繰り返しの練習と具体的場面を通した理解を促す。

【第5学年】 問題文の意味把握、式とのつながりを意識

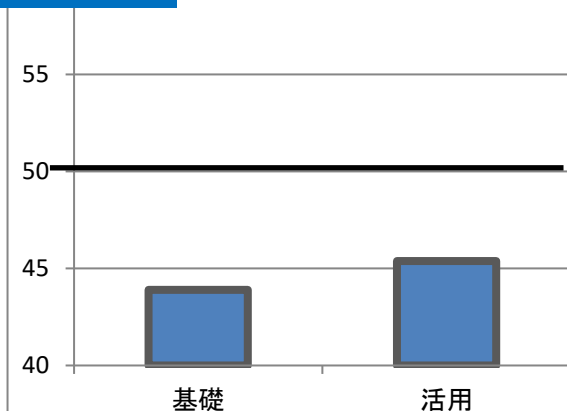
計算のきまり、角の測定、ひし形の作図、変化の関係、わり算の筆算に課題が見られる。基本的な手順の確認や具体的操作、問題文の意味把握を丁寧に行い、式とのつながりを意識した指導が求められる。

【第6学年】 概念理解→計算→活用という段階的な学習

分数の商、偶数の理解、合同作図、速さの単位、平均の計算などに課題がある。各単元の学習事項を明確に再指導し、概念理解→計算→活用という段階的な学習を行うことで、定着と応用力の向上を図る。

理科に関する本校の傾向と対策

基礎・活用



【考察】

実験には意欲的に取り組んでいるが、知識や用語の習得に結び付いていない。

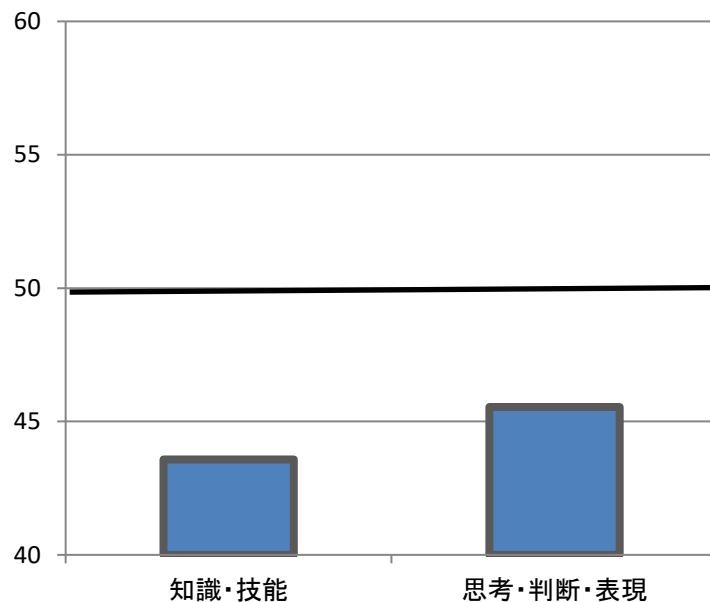
【今後の方策】

実験内容だけでなく、習得内容の確認、用語の確認を定期的に行う必要がある。実験結果から考察したことを書く活動を充実させる。

【次年度の目標】

知識・技能を身に付けさせるように意識的に指導を行う。学期末などに既習事項の復習を行う時間を設ける。また、実験結果から考察考えたことを書く活動を充実させ、交流する時間を設ける。

目標値を50としたときの 本校平均正答率の割合



課題と指導のポイント

【第4学年】 既習事項の復習をするなどして、学習の定着を図る。

学習した内容が、知識として身に付いていないものがある。特に生物の単元では、植物の体のつくりや花が咲き終わった後どうなっていくかの理解が足りない。既習事項の復習などをして、知識として身に付くような手だてが必要である。また、結果から考察することが難しい面があるので、実験結果から考察したことを書く活動を大切に、考えたことを交流する機会を増やす。

【第5学年】 結果から考察を書く活動を充実させる。

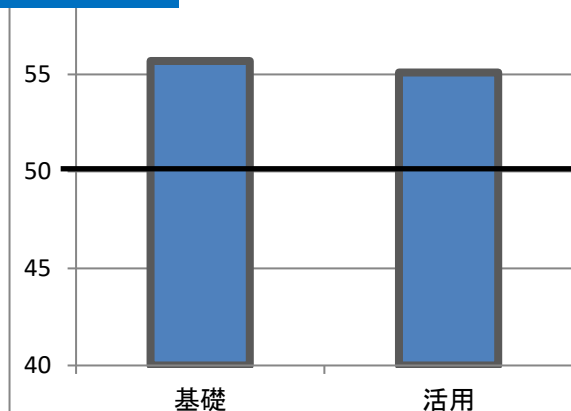
知識の定着と実験結果からの考察に課題がある。実験等で得た知識を日常生活と関連づけることで、実感を伴った理解ができられるので、そのような機会を増やす。また、実験結果から考察したことを書く活動を大切に、考えたことを交流する時間を設ける。

【第6学年】 既習事項の復習をするなどして、学習の定着を図る。

知識の定着に課題がある。理科的な用語を確実に定着させるために、既習事項の復習などをして、知識として身に付くような手だてが必要である。また、実験器具の扱いについては、順序だてて確実に扱えるように、一人一人が作業する機会を作り、グループで確認する活動を取り入れる。

英語に関する本校の傾向と対策

基礎・活用



【考察】

いずれの項目でも目標値・全国平均正答率・前年度校内平均正答率を上回り、前年度設定した「すべての観点別正答率について、目標値を上回る」という目標を達成した。特に大問5(身近で簡単な事柄についての対話を聞き、その内容を理解している)、大問9(活字体の大文字・小文字を正しく書いている)、大問10(音声で十分に慣れ親しんだ、英語で書かれた語句の意味を理解している)、大問12(例文を参考にしながら、自分のあこがれの人を紹介する文を完成させている)については、すべての小問の正答率が目標値に対し+5ポイント以上も上回り、聞くこと・読むこと・書くことすべての領域で成果を見取ることができた。

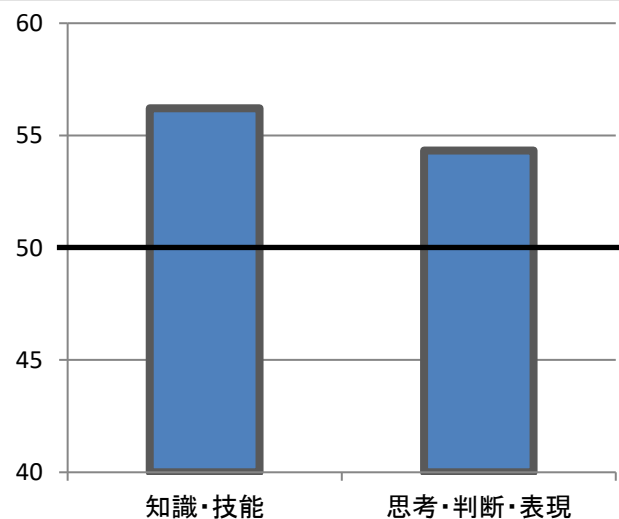
【今後の方策】

引き続き、各領域バランスよく力を伸ばしていけるよう指導していく。

【次年度の目標】

観点別正答率について目標値を上回り、力をさらに伸ばしていく。

目標値を50としたときの
本校平均正答率の割合



課題と指導のポイント

【第6学年】リスニングの指導を充実させる。

いずれの項目でも目標値・全国平均正答率・前年度校内平均正答率を上回り、成果を見取ることができた。子音等の発音練習を帯活動で設けて基礎的な技能を伸ばしたり、毎回の導入でスモールトークを取り入れ、学期末にスピーチコンテストを設けるなどして英語で話すことに慣れ親しませたりしたことで、児童が自信と見通しをもって学習に臨むことができたためかと考える。

大問6(1)のみ、正答率が目標値を下回った。2人が会話している内容を聞き取り、その様子を最もよく表している絵を3つのイラストから選ぶ問題である。同様パターンの問題がその後3題続き、目標値との差異がそれぞれ(2)は+9.9、(3)は+9.6、(4)は+8.3と大きく上回っていることから、聞く力の他に問題の形式に慣れていなかったことも要因だと考えられる。問題を最後まで集中して聞くように指導し、大事だと思う箇所にはメモをさせるなど、リスニングの力を伸ばしていきたい。

中学校進学に向けて、自信をもって前向きに英語の学習に取り組めるよう指導していきたい。